

大学と地域が連携したスタディ・ツアーの検討

藤野裕弘*・日比慶久*・藤吉正明*・岩本 泰*・室田憲一*・
北野 忠*

はじめに

教養学部人間環境学科自然環境課程では、これまで多くの実践的環境教育に関する教育研究を行ってきた^{1,32)}。その演習は、地域連携を重視した内容が多く、環境 NPO や初等中等教育機関との連携が主となっている^{5,32)}。加えて、2009年度から2012年度まで、複数のコカ・コーラ教育・環境財団寄付演習を実施してきた。

本研究は、これらのスタディ・ツアーについて再検証し、1) 地域の自然、歴史と文化の融合による地域知の理解、2) 多様な地域の暮らしの知恵に学ぶ地域に根ざしたライフスタイルの理解、3) 地域住民との交流に基づく人材育成とこれからの「持続可能な地域づくり」への地域貢献の相互関連性、の3点に着眼した内容の再構築を目的とした教育研究である。

今年度は、2016年2月に北海道夕張郡栗山町において、町役場及び教育委員会と連携して実施した実践的環境教育プログラムについて報告する。

実施内容

実施内容が栗山町の自然と文化・産業を学び、地域活性化につながる提案を行うため、4泊5日で演習体験を実施した。実施スケジュールは、以下の通りである。

受理日2016年11月23日

*教養学部人間環境学科自然環境課程

<スケジュール及び内容>

2月13日(土)

時間・行動内容	備考
9:30 羽田集合	10:15発→11:45新千歳着(ADO19便)
12:00 昼食	新千歳空港内
13:00 新千歳出発	大型バスにて移動
14:00 環境ハウス着	部屋割と荷物整理など
14:30 開会式 挨拶	東海大学藤野、コカ・コーラ、栗山町教育委員会、NPO法人雨煙別、栗山町ハサンベツ里山計画実行委員会
	今回の演習の「Mission」について:名内氏
15:30 雪国体験説明	雪合戦ルールの学習:名内氏
16:30 雪国体験①	雪合戦用の壁作り作業
18:00 夕食	学生配膳支援
意見交換会	北海道実習に期待すること:各自学生発表
19:30 講義①	栗山町のまちづくりと環境保全の歴史:名内氏
20:30 自由時間	

2月14日(日)

7:00 起床	
7:45 朝食	学生配膳支援・朝食後着替え
8:30 出発	ハサンベツ里山へ大型バスにて移動
9:00 雪国体験②	里山体験:ハサンベツ里山を中心とする生き物・自然観察 スノーシュー等<準備:NPO法人雨煙別>
11:45 出発	ハサンベツ里山からふれあいプラザ周辺に移動
12:00 昼食	栗山うまいもの探し ※食べ終わった者はふれあいプラザ内見学:水生生物等
13:30 出発	ハサンベツ里山へ大型バスにて移動
14:00 雪国体験③	里山体験:ハサンベツ里山での間伐、薪割り体験
16:30 出発	雨煙別小学校へ大型バスにて移動
17:00 GW①	Mission1:「くりやま環境カルタ作り」各グループに 50音を振分け、「読み札の文章」「取札の絵」を考える。
18:30 夕食	学生配膳支援
19:30 雪国体験④	アイスクャンドル作り:しずく型アイスクャンドル
21:00 自由時間	

2月15日(月)

7:00	起床	
7:45	朝食	学生配膳支援
8:30	出発	コカ・コーラ札幌工場へ大型バスにて移動
10:00	講義②	コカ・コーラ工場見学 使った水を自然に返すコカ・コーラの取組み「Water Neutrality」を学ぶ：北海道コカ・コーラ社・川西課長
11:50	昼食	コカ・コーラ社員食堂にて昼食
12:45	出発	栗山まちの駅「栗夢プラザ」へ大型バスにて移動
14:00	視察	栗山特産品探し：まちの駅「栗夢プラザ」見学
14:30	出発	「匠の森」へ大型バスにて移動
15:00	視察	栗山特産品探し：「匠の森」見学（地産池消の取組み）
15:30	出発	小林酒造へマイクロバスで移動
16:00	視察	「小林酒造」酒蔵の視察：地場産使用。なぜ、酒は冬場に醸造するか等：小林酒造・小林専務
17:00	出発	雨煙別小学校へ大型バスにて移動
17:15	到着	雨煙別小学校到着
18:00	夕食	学生配膳支援
19:00	GW②	Mission 2:「くりやま田舎ツーリズム発表」に向けた準備 ワールドカフェ方式での振り返り、GW、発表に向けた準備
21:00	自由時間	

2月16日(火)

7:00	起床	
7:45	朝食	学生配膳支援
9:00	GW③	グループ毎の課題・まとめグループワーク 「くりやま環境カルタ」完成
11:00	雪国体験⑤	雪中カルタ大会：作ったカルタで雪中カルタ大会
12:00	昼食	学生配膳支援
13:00	雪国体験⑥	雪合戦：国際雪合戦ルールのもと、本格的な雪合戦
16:00	GW④	学生4チーム総当たり戦 グループ毎の課題・まとめグループワーク、発表準備
18:30	夕食懇親会	学生配膳支援 NPO雨煙別学校理事、職員、教育委員会、町民、その他関係者・学生交流 ※最終提案に向け関係者等から話しを聞きながら夕談会
21:00	自由時間	

2月17日 (水)

7:00	起床	ハウスを出るための荷づくり
7:45	朝食	学生配膳支援
8:30	GW④	グループ毎まとめグループワーク、プレゼンテーション準備
12:30	昼食	学生配膳支援
13:30	最終提案	4グループ発表=1グループ30分
16:00	片づけ・清掃	意見交換会
17:00	ハウス出発	大型バスにて移動→新千歳で現地解散
18:00	解散	

結果およびまとめ

今回の体験プログラムでは、栗山町の自然や文化・産業を把握（事前調査と現地見学・体験）した上で、地域の活性化につながる学生視点の提案を行うという授業内容であった。そのため、プログラム前半では自然体験や施設見学を、後半ではグループワークや発表準備などの作業を中心に体験や講義等が実施された。

まず、コカ・コーラ環境ハウスに到着後、環境ハウス及び地元 NPO グループの方々から環境教育活動についての説明を受けた（図1）。その後、施設見学として地元の造り酒屋である「小林酒造」の見学（図2）や、北海道産材を活用して家具類を作るデザイナーの方々の展示木工体験施設である「匠の森」の見学（図3）などを実施した。それから、栗山町にあるハサンベツ里山緑地において、雪ならではの体験を行うために、スノーシュー（西洋かんじき）を履いて里山内の散策及び生物観察会が行われた（図4）。ハサンベツ里山は、谷戸地形になっており、尾根から下がる谷部に湧水が生じて小川が流れている。その小川に、越冬中のエゾアカガエルやサンショウウオの仲間などが生息しているとのことであった。その里山では、野菜栽培や保全のための管理活動が行われており、今回の実習では水辺湿地内に侵入した外来植物：ニセアカシア（ハリエンジュ）の伐採及び薪割りを体験させていただいた（図5-6）。

その他、栗山町で取り組んでいるスポーツ雪合戦の体験や環境かるた作りとその実践を行った（図7-8）。また、現地 NPO が自然教育プログラムの一つとして実践しているアイスキャンドル作りも環境ハウスで体験した（図9-10）。5日間のプログラムでは、毎日グループワークが取り入れられており（図11）、班別または全員で意見交換や議論などを重ねることで、学生同士の交流や新たな気づき・発見へとつながったようである。最終的には、地域の方々やお世話になった方々をコカ・コーラ環境ハウスにお招きして、意見交換や学生たちの企画した地域活性化の提案をさせていただいた（図12）。

今回の参加学生は、院生や補助学生含めて29名であったため、4つのグループに分け、地域活性につながるイベント企画の提案を行った。



図1 コカ・コーラ環境ハウスの活動紹介



図2 小林酒造での醸造見学



図3 匠の森での木工クラフト見学



図4 里山でのスノーシュー体験



図5 里山での間伐体験



図6 里山での薪割り体験



図7 環境ハウスでのスポーツ雪合戦



図8 環境ハウスでの環境かるた



図9 環境ハウスでのアイスクャンدل作り



図10 アイスクャンドルの灯火



図11 打ち合わせの様子



図12 最終発表会の様子

まず、1班目の企画テーマは、「桃太郎迷宮ツアー 鬼から栗山町を守れ」というテーマであり、きび団子というお菓子が地元で製造・販売されていることにちなんだテーマである。企画実施場所は、コカ・コーラ環境ハウスのグラウンドとし、そこに雪を固めて巨大迷路を作り、迷路途中に様々な仕掛けが施されている子供から大人向けのイベント企画である。栗山町の里山体験や匠の森での木工クラフト体験と合わせた、栗山町体験プログラムとなっている。

2班目の企画テーマは、「ハサンベツに村を作ろう」というテーマであり、ハサンベツ里山を中心にした自然体験・活動満喫プランとなっている。そこでの取り組みとしては、夏の時期に水田や畑での作物栽培およびその収穫や野外調理体験を通して米や野菜の美味しさを満喫し、加えて里山雑木林の木材を活用した木工クラフト体験や小屋・ツリーハウス作りを行い、自然の中で遊ぶ楽しさを実感するという企画である。

3班目の企画テーマは、「くりやまオリンピック」というテーマであり、自然と運動をキーワードにして、地元の方も含めて栗山町に集まった方々が競技種目を通して触れ合う企画となっている。競技種目としては、雪合戦や丸太運び、木工クラフト、障害物リレーなどが提案され、ハサンベツ里山やコカ・コーラ環境ハウスなどが競技会場になっている。

最後に、4班目の企画テーマは、「つかもう！ 栗山町で幸せを！ 栗山婚活&美食ツアー」というテーマであり、栗山町の男性と町外からの女性を結びつけ、栗山町への定住をすすめる交流企画である。その取り組みにおいて、町内にある小林酒造のお酒を使って交流を盛り上げ、また女性にとっては日本酒風呂や酒粕パック、地元特産のトマトや赤タマネギを使った料理を食すなど、健康と美容も兼ねた企画となっている。

これらの提案は、現地での講義や施設見学、現地体験などをもとに、学生それぞれが興味を持ったことを班ごとに議論し、工夫・改善を行うことで班の提案として企画・立案したものである。今後、いずれかの企画・提案が栗山町で実施されることが望まれる。

今年度の演習においても、4泊5日という短い時間の中で、授業企画の実施者（大学教員・町役場・教育委員会）と体験者（履修者学生）の双方が熱意を持って取り組んだ環境教育プログラムであった。通常の講義・実習等では、1-4時限の時間帯の中での活動が主流であるが、この演習授業は宿泊を伴うものであったため、その時間に加え、19時以降のワークショップや21時以降の自由時間なども学生同士議論するなど、学生にとっては教育密度の高い、また良い意味で印象に残る演習であったと思われる。今後も、さらなる質の向上を目指して、新たな体験活動（栗山町ならではの体験や自然物の活用等）を取り入れる予定である。

謝辞

この教育研究の一部は2015年度教養学部研究補助金の支援を受けて実施された。関係各位に心より感謝申し上げます。

引用文献

- 1) 藤野裕弘・内田晴久・松澤宏・小林一夫：「企業の CSR 活動と連携した実践系授業の展開（１）—CSR と大学院授業との連携—」. 2010 年度日本環境教育学会第 21 回大会研究発表要旨集, pp.156 (2010).
- 2) 藤野裕弘：「地域社会と連携した体験型環境教育の試み～東海大学の実践例～」. 私立大学環境保全協議会会誌, 第 15 号, 19-24 (2012).
- 3) 室田憲一・藤野裕弘他：NPO と連携した体験学習型教育の試み. 2003 年度日本環境学会第 29 回研究発表会講演要旨集, pp.178-180 (2003).
- 4) NPO 法人自然塾丹沢ドン会編集：名古屋の自然—丹沢の雑木林・棚田の復権と生き物たち, 夢工房, 神奈川, pp.63 (2003).
- 5) 室田憲一・藤野裕弘他：NPO と連携した体験学習型教育の試み. 東海大学紀要教養学部, 第 34 輯, 331-333 (2003).
- 6) 藤野裕弘・内田晴久他：環境 NPO と連携した体験学習型環境教育の試み（１）. 2004 年度日本環境学会第 30 回研究発表会講演要旨集, pp.84-85 (2004).
- 7) 室田憲一・藤野裕弘他：環境 NPO と連携した体験実習型環境教育の試み（１）. 東海大学紀要教養学部, 第 35 輯, 271-276 (2004).
- 8) 室田憲一・藤野裕弘他：環境 NPO と連携した体験実習型環境教育の試み（２）. 2005 年度日本環境学会第 31 回研究発表会講演要旨集, pp.240-243 (2005).
- 9) 室田憲一・藤吉正明他：環境 NPO と連携した体験学習型教育の試み—農業体験事例報告—. 東海大学紀要教養学部, 第 36 輯, 1-11 (2005).
- 10) 北野忠・藤野裕弘他：地域社会と連携した体験型環境教育の試み～SPP を利用した具体的取り組み例～. 東海大学紀要教養学部, 第 36 輯, 13-21 (2005).
- 11) 藤野裕弘・内田晴久他：環境 NPO と連携した体験実習型環境教育の試み（２）. 東海大学紀要教養学部, 第 36 輯, 249-255 (2005).
- 12) 北野忠・藤野裕弘他：地域社会と連携した体験型環境教育の試み～SPP を利用した具体的取り組み例～. 2006 年度日本環境教育学会第 17 回研究発表会講演要旨集, pp.146 (2006).
- 13) 藤野裕弘・藤吉正明他：環境 NPO と連携した体験実習型環境教育の試み（３）. 東海大学紀要教養学部, 第 37 輯, 247-252 (2006).
- 14) 藤野裕弘・内田晴久他：環境 NPO と連携した体験実習型環境教育の試み（１）—乗船体験実習—. 2007 年度日本環境教育学会第 18 回大会研究発表要旨集, pp.65 (2007).
- 15) 室田憲一・藤吉正明他：環境 NPO と連携した体験実習型環境教育の試み（２）—農業体験実習—. 2007 年度日本環境教育学会第 18 回大会研究発表要旨集, pp.66 (2007).
- 16) 藤野裕弘・内田晴久他：環境 NPO と連携した体験実習型環境教育の試み（４）. 東海大学紀要教養学部, 第 38 輯, 271-278 (2007).
- 17) 内田晴久・藤野裕弘他：地域社会と連携した体験型環境教育の試み（１）～初等中等教育との連携を中心に～. 東海大学紀要教養学部, 第 38 輯, 279-285 (2007).
- 18) 藤野裕弘・内田晴久他：環境 NPO と連携した体験実習型環境教育の試み（５）. 東海大学紀要教養学部, 第 39 輯, 289-294 (2008).
- 19) 内田晴久・藤野裕弘他：地域社会と連携した体験型環境教育の試み（２）～初等中等教育との連携を中心に～. 東海大学紀要教養学部, 第 39 輯, 295-301 (2008).
- 20) 藤野裕弘・内田晴久他：環境 NPO と連携した体験実習型環境教育の試み（６）. 東海大学紀要教養学部, 第 40 輯, 365-370 (2009).
- 21) 内田晴久・藤野裕弘他：地域社会と連携した体験型環境教育の試み（３）～初等中等教育（SSH）との連携を中心に～. 東海大学紀要教養学部, 第 40 輯, 371-377 (2009).
- 22) 藤野裕弘・内田晴久他：地域社会と連携した体験型環境教育の試み～初等中等教育と連携した

- 人材育成を中心に（１）～、東海大学紀要教養学部、第41輯、309-313（2010）。
- 23) 藤野裕弘・内田晴久他：地域社会と連携した体験型環境教育の試み～環境 NPO との連携を中心に（１）～、東海大学紀要教養学部、第41輯、315-328（2010）。
- 24) 藤野裕弘・内田晴久他：地域社会と連携した体験型環境教育の試み～初等中等教育と連携した人材育成を中心に（２）～、東海大学紀要教養学部、第42輯、297-304（2011）。
- 25) 藤野裕弘・内田晴久他：地域社会と連携した体験型環境教育の試み～環境 NPO との連携を中心に（２）～、東海大学紀要教養学部、第42輯、305-312（2011）。
- 26) 藤野裕弘・青木靖・松澤宏：企業の CSR 活動と連携した実践系授業の展開（ISO14001 の活用）、東海大学紀要教養学部、第43輯、15-22（2012）。
- 27) 藤野裕弘・内田晴久他：地域社会と連携した体験型環境教育の試み～環境 NPO との連携を中心に（３）～、東海大学紀要教養学部、第43輯、329-339（2012）。
- 28) 藤野裕弘・内田晴久他：地域社会と連携した体験型環境教育の試み～初等中等教育と連携した人材育成を中心に（３）～、東海大学紀要教養学部、第43輯、341-349（2012）。
- 29) 藤野裕弘・内田晴久他：地域社会と連携した体験型環境教育の試み～環境 NPO との連携を中心に（４）～、東海大学紀要教養学部、第44輯、269-178（2013）。
- 30) 藤野裕弘・内田晴久他：地域社会と連携した体験型環境教育の試み～初等中等教育と連携した人材育成を中心に（４）～、東海大学紀要教養学部、第44輯、279-284（2013）。
- 31) 藤野裕弘・内田晴久他：地域社会と連携した体験型環境教育の試み～環境 NPO との連携を中心に（５）～、東海大学紀要教養学部、第45輯、355-367（2014）。
- 32) 藤野裕弘・内田晴久他：地域社会と連携した体験型環境教育の試み～初等中等教育と連携した人材育成を中心に（５）～、東海大学紀要教養学部、第45輯、369-372（2014）。